

## 逆境を乗り越えて～復興進む エゾアワビの画期的な陸上養殖事業

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた、元正栄 北日本水産は逆境を乗り越えて以前の生産力を目指して努力を続けています。

去る11月10日訪問の節には、稚貝を10万個出荷する作業に追われていました。

現在の生産施設・設備の復旧によって想定される生産能力は、稚貝レベルで200万個／年、成貝レベルで万個／年に止まります。国内外のアワビ消費量からすると微々たる数量に過ぎません。更なる生産量の増大を目指しています。

JIFAS とも縁の深い「**一個 52万円の**アワビ文化」の著者・堺 一郎博士はこの中で次のように述べています。

「北日本における陸上養殖の創始者古川氏は、綾里漁協組合員としてノリ養殖を手掛けていたがのり価格の暴落から、それまで副業的に行っていたシイタケ栽培を本格化させていた。シイタケづくりの名人が(株)技研工商との協議でアワビ陸上養殖のテストを開始した。昭和58年鉄筋3階建ての施設に6段式のプラスチック水槽(1mタンク66本、10mタンク22本)を設置、本格的な陸上アワビ養殖に踏み切った。そして、昭和62年には長水路水槽72本を収納したプラントを設計し、アワビの陸上養殖をPRした。……」

この設備が、全て東日本大震災で流失したのです。まさしくゼロ(0)からの再出発です。この技術は現存する我国最先端の技術であります。

JIFAS は設立当初から陸上養殖を手掛けてきており、本技術にオーストラリアを中心とする更に優れた海外技術を提供し、共同研究を進めながら、実質的に世界一のエゾアワビ生産を目指しています。

